

飯沼関子

もしも
汐草

塩川

となり耶麻耶懸堀山麓の僻村に在勤中世話する人があつて萱野長準の妹いしを
娶り、飯沼、飯沼、たき、一の一男三女があつて細々と生活して居られたが
明治三十一年夏赤痢に罹り、年の十一月十一日死去せられた、享年四十八
葬儀万端片付いて後、未亡人いしに對し府君より兄弟ひもより家計を補助せし
めるから子供を育て、居て呉れと言はれた処、子供の世話をして居つては私自
身の身が立ちませぬから実家へ歸りますとて子供を残して赤練氣もなくサツサ
と実家に歸つて仕舞つた、勇敢の婦人であつた。後で聞けば高橋藤吾と云ふ大尉
位の退役軍人に再嫁したさうである。

次兄貞雄（始貞吉）少より穎敏兎角兄を凌ぐの風があつたから府君は二三男
は浪人者で兄の世話にならねばならぬから何事でも兄の命に惟れ従ふやうにし
やうと仕付けられたさうであるがなかく云ふ事を聞かず兄の方が買け氣味で
あつたからいつも貞雄の方を叱られたさうだ。さうすると直ぐ三ノ丁のおさど
（母の実家）へ走り行き、其の事をかばいさん（十郎七）おばあさんと話しす
る。此のおかばいさん、おばあさんは大の貞雄びいきであつたさうだ。兄をいぢめ
て府君に手ひどく叱られた時などは日が暮れかへつても歸らうとしない。おか

いさんが據り所なくお詫をしてやるから一處に來いと、肩衣をつけてお詫に來
られる事もあつたさうだ

戊辰の時は十六歳で士中白虎二番隊に入りヤノ口原で敗戦、飯盛山で皆と一
處に自刃したが蘇生したは此の人である。

謹慎赦免後、

直々に静岡の林三郎といふ人の塾に入りて修業せられ夫から邊

信省の電信草技に入り卒業後仕官して電信の技手より累進して技師となり日清
戦役には大尉の資格にて朝鮮へ出向を命ぜられ、電線を架設して大いに功績あり、
軍金勲章を授與せられた。晩年には勅任技師迄になり退官後は仙名市に居
をとし悠々自適餘生を送られたが昭和六年二月病んで歿せられた。享年七十八。
飯沼は歴代神式で葬儀をするが、遺言して市の北郊輪王寺に佛葬せられた。妻
は広島の人、松尾氏れん。一雄うらじ、一精の二男一女があつた

次は姉でひろと云つた、戊辰の時九歳、後飯沼知記に嫁した。子はなく従兄
永井道忠の二男道雄を養子にした。